

No.359  
令和2年2月

# 区政会館だより

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への  
23区への取り組み

中野の新施設 大会の記憶とともにまちの魅力を創出



中野区



◀東京2020大会の卓球公式練習会場となる  
建設中の中野区立総合体育館完成予想図

「参加から協働へ」練馬ならではの住民自治の創造に向けて



練馬区



特別区長会事務局  
特別区議会議長会事務局  
特別区人事・厚生事務組合  
公益財団法人特別区協議会  
東京二十三区清掃一部事務組合  
特別区競馬組合

▲記念イベントの「陸上トラック走り初め」で100mを走るオリンピック・朝原宣治さんと子ども達  
2019年3月31日、区立練馬総合運動場公園



## 中野区

# 中野の新施設 大会の記憶とともにまちの魅力を創出

聖火リレー9日目は2020年7月18日。杉並区から中野区へ、そして練馬区へと繋がれます。当日は土曜日のため、沿道には多くの区民が駆けつけ、応援は一層の盛り上がりを見せることでしよう。6月に開設予定の中野区立総合体育館は東京2020大会の卓球の公式練習会場として、区のスポーツ振興の中心となる施設にふさわしい幕開けを迎えます。

### スポーツの輪を広げる 開かれた施設

中野区では現在、区民のスポーツ・健康づくりの場としての機能、憩いの機能、防災

機能等、公園全体の機能向上を図るため、平和の森公園の再整備が進められています。

2018年12月、公園内へ新たに建設する中野区立総合体育館が東京2020大会卓球競技の公式練習会場になることが決まりました。新体育館は今年5月に竣工、6月中旬にオープニングイベントの実施が予定されています。完成披露のイベントにはオリンピック、パラリンピアンを招く予定です。お祝いムードに加え、大会への期待と興奮が一層高

まります。その後、7月から公式練習会場として使用され、パラリンピックの卓球競技の終了後、一般利用を開始する予定です。

新体育館のコンセプトは、自然に寄り添う「みどりのなかの体育館」。広大な敷地に運動場と大小の広場、ドッグランを備え、豊かな水辺と緑にあふれる平和の森公園の自然環境とマッチするよう、メインアリーナの天井や内装、外装には木材がふんだんに使用されます。落ち着きあるシックな外観が特徴的な施設は、メインアリーナとサブアリーナを中心に多様な公式競技に対応した機能と設備を備え、かつ、区民の通常利用としても使いやすく設計されています。

す。公園の一部として建物の前に広がる草地広場と一体化できる開放的なテラスがあり、外からの利便性を考慮してテ



中野区立総合体育館 完成予想図(メインアリーナ)

ラスと隣接した場所にカフェもつくられます。トレーニングのための充実した設備に加え、リラククスできる環境が備わった新しい体育館は、各国の選手たちの総合的なコンディショニングをサポートするにふさわしい施設となっています。館内にはボルダリングができるクライミングウォール、自然光を取り入れた明るく広々としたトレーニング室など、区民にとっても利用が楽しみになる設備が整えられます。今後は様々な競技の大会がこの体育館を会場に開催される見通しで、体育館を含めたこの公園には、スポーツを通じたコミュニティの核としての役割が期待されています。

## 「ONE NAKANO」で盛り上げよう！スポーツの祭典

東京2020大会を契機に、区民一丸となって「する」「観る」「支える」スポーツを推進するため、区が開催するスポーツイベントに「ONE NAKANO」というフレーズを冠しています。

区では障害者スポーツを盛り上げるための施策に力を入れており、オリンピック・パラリンピック関連イベントにはすべて障害者スポーツをテーマにした企画が盛り込まれています。昨年、行われた「3×3」競技の観戦イベントでは車椅子バスケットボールのデモンストレーションと体験が行われました。また、体育の日に行われたスポーツ体験イベントでは、ボッチャや5人制サッカーの体験ブースを設け、広く参加を募り、障害者スポーツに対する区民の理解を深めました。前述の中野区立総合体育館のサブアリーナの床材は、多様な障害者ス

ポーツやニュースポーツ等を行うことが可能なスポーツフロアが採用され、全館が完全バリアフリー化されています。「する」スポーツを創出することができる利用価値の高い公施設は、日常に溶け込み、区民のスポーツ健康づくりやスポーツ活動の充実に貢献することでしょう。



3人制バスケット3×3(スリー・エックス・スリー)競技観戦イベント

次に、「観る」は、観戦体験の魅力を高める場として、パブリックビューイングを企画しました。これまでに、2018 FIFAワールドカップロシア、そして日本中を熱狂させたラグビーワールドカップ2019日本大会で実施しました。こうした催しを自治体が主催することは珍しく、会場はすぐに満員となり、500人もの観客が興奮と歓喜の瞬間を分かち合いました。区は、パブリックビューイングを東京2020大会でも実施して、大会を盛り上げていきたいと考えています。



実行委員の活動  
(ラグビーワールドカップ2019日本大会パブリックビューイング受付)

最後に、区民等で構成する「中野区オリンピック・パラリンピック推進実行委員会」は「支える」取り組みの象徴的な存在です。公募で選ばれた年齢も職業も様々な17名が参加し、オリンピック・パラリンピック関連事業の企画立案・運営に協力しています。大会後も実行委員会のつながりは、区内スポーツ振興の活性化に寄与していくことでしょう。



実行委員の活動 (東京2020大会開催1年前イベント案内)





## 練馬区

# 「参加から協働へ」練馬ならではの住民自治の創造に向けて

オリンピック開幕のちょうど1週間前にあたる2020年7月18日、聖火リレー隊列は練馬区を駆け抜け、セレブレーション会場である「練馬区立練馬総合運動場公園」を目指します。公園は2019年4月に全天候型舗装の400mトラックや人工芝グラウンドなどを備えてリニューアルされました。練馬区は、聖火リレーやセレブレーションの開催をはじめとして、区民との協働で東京2020大会を盛り上げるとともに、練馬ならではの住民自治の実現に向けて取り組みを進めています。

### 体験することから 本当の理解が始まる

練馬区では、これまで東京2020大会に向けて数々のイベントを行ってきましたが、とりわけ大切にしてきたことは、区民に様々な競技、特にパラリンピック競技を中心に、

それぞれの中で、参加者はパラリンピックの魅力を体感してました。終了後、子ども達からは、「難しかった」「選手の人達は、すごい!」「障害のある人と一緒にスポーツができて楽しかった」という声が聞かれました。パラリンピック競技には、障害のある人も障害のない人も、誰もが一緒に楽しめる種目が数多くあります。子ども達は、パラリンピック競技の楽しさを体験会から感じ取っていたのです。体験会は、一部の種目を入れ替えて2019年にも開催され、全体で210組424人の親子が参加しました。これをきっかけに、パラリンピックに今まで以上に興味を持ち、東京2020大会のパラリンピックに特に



車いすポートボールを体験する親子

注目して観戦することでしょう。つ岩渕幸洋さんをはじめ、パラ卓球の日本国内トップ10の選手が集まりました。国内屈指の大会での優勝者と準優勝者である選手達に、大会の決勝戦を再現してもらったのです。優勝者は負けるわけにはいきません。一方、準優勝者にとっては恰好のリベンジマッチです。真に「ガチンコ」対決。試合の迫力は、観客を圧倒しました。試合後は、選手と来場の区民でラリーを行う体験会が開催され、参加者は「トップ選手とラリーが出来て感動した」と興奮気味に語っていました。

- 世田谷区
- 杉並区
- 中野区
- 練馬区
- 豊島区
- 板橋区
- 北区
- 足立区
- 葛飾区
- 江戸川区
- 墨田区

々を実際に体験してもらう機会を作るといことです。体験することにより、競技の楽しさや難しさ、選手の技術の高さなど、本当の理解が始まります。2018年8月、区では、大会の開幕2年前に合わせ「夏休み親子パラリンピック競技体験会」を開催しました。親子が体験した競技はゴールポール、車いすポートボール、車いすリレーの3種目。それ

もう一つ、練馬区が大切にしてきたことは、国内外で活躍する選手と区民とが触れ合う機会を出来るだけ多く作るということです。本格的なプレーを見て、触れてもらうことで、区民に、オリンピック・パラリンピックに留まらない、スポーツ全般への関心を高めてもらうのです。2018年7月、区内体育館に、リオ2016パラリンピックの出場経験を持

つ岩渕幸洋さんをはじめ、パラ卓球の日本国内トップ10の選手が集まりました。国内屈指の大会での優勝者と準優勝者である選手達に、大会の決勝戦を再現してもらったのです。優勝者は負けるわけにはいきません。一方、準優勝者にとっては恰好のリベンジマッチです。真に「ガチンコ」対決。試合の迫力は、観客を圧倒しました。試合後は、選手と来場の区民でラリーを行う体験会が開催され、参加者は「トップ選手とラリーが出来て感動した」と興奮気味に語っていました。

2019年3月の東京2020大会500日前・ラグビーワールドカップ2019日本大会6か月前にあたり、練馬総合運動場公園リニューアル

荒川区

台東区

文京区

千代田区

中央区

江東区

大田区

品川区

目黒区

渋谷区

港区

新宿区



2019年4月にリニューアルされた  
練馬総合運動場公園

### ユニバーサルデザインの まちの実現を目指して

オープンイベントに併せて「陸上トラック走り初め」等が行われました。ゲストアスリートの北京2008オリンピック400mリレー銀メダリストの朝原宣治さんが大歓声を受けながら、子ども達と一緒に1000mを駆け抜けました。この他にもゲストプレーヤーの元ラグビー日本代表キャプテンの菊谷崇さんが参加するラグビーのデモ試合などが行われました。同年7月には、「親子サッカー教室」が開催されました。ゲストとして、女子サッカー界のレジェンド・澤穂希さんの他、日テレ・ベレーザの選手を迎え、小学生と保護者のペア100組200名が澤さんたちの指導を受けました。参加した親子にとって、一流の技術を身近に触れることができる貴重な体験となりました。

練馬区では、2016年から「ユニバーサルスポーツフェスティバル」を開催しています。このフェスティバルは、障害のある方もない方も、ともに気軽にスポーツを楽しむきっかけとして、相互に理解を深めることを目的とするものです。区内のスポーツや障害者福祉の各団体と協働で開催してきました。現在では、区内にある福祉施設のイベントを巡る「ねりあるきラリー」、誰もが楽しめる競技や演技発表をプールで行う「ノーマライゼーション水泳フェスティバル」、障害者施設や団体による製品販売や演奏などを行う「障害者フェスティバル」、国籍や年齢、障害などを越えたオーケストラと合唱による「Nearimaユニバーサルコンサート」なども開催しており、一連のイベントを総称して「ねりまユニバーサルフェス」と呼んでいます。様々なイベント会

場では、東京2020大会を応援する「ハンドスタンプアート」も行われ、既に4万人を超える区民が参加しています。スポーツから始まった取り組みが分野を超えて、多くの区民が楽しむイベントに成長しています。区は、誰もが豊かなサービスを享受し、活動できるユニバーサルデザインの実現を目指しています。こうした練馬区の取り組みは東京2020大会ビジョンのコンセプトの一つ「多様性と調和」の実現にも大きく寄与しています。



誰もが楽しめる競技(風船バレー)

また、2015年から「練馬こぼしハーフマラソン」を開催しています。例年3月下旬に開催される大会は、区の木に指定されている「こぼし」と「桜」のトンネルを駆け抜け、練馬区の豊かな自然を感じる

ことができます。毎年、5千人のランナーが参加し、沿道では1万5千人の区民が応援する人気の大会です。大会は、ランナーや区民からも高く評価されており、特にボランティアに対する評価は高くなっています。ボランティアは、スポーツ団体や町会・自治会など2千人を超える地域の方々が、ここでも区民との協働で大会が運営されています。

区との協働に加えて、区内では、区民や団体が「地域の課題」をとともに考え、一緒に取り組む、自発的な協働の取り組みが生まれ始めています。練馬区は、「参加から協働へ」更なる深化を図り、東京2020大会に向けた取り組みもきっかけにしながら、区民や団体と区が協働することで、練馬ならではの住民自治の創造に向けて、さらに前へ進んでいくことでしよう。

